

# 関西民放クラブだより

## 上方芸能を楽しむ

### 文楽音痴のレポート

杉野 林一(ABC)

落語(上方芸能)を楽しむ会では、昨年に引き続き、今年も文楽公演の鑑賞を致しました。

今年の「初春文楽公演」では人間国宝として活躍されていた豊竹嶋大夫さんが引退される最後の舞台となります。

まだ屠蘇気分も抜けきらない1月20日の10時30分、35名のメンバーは国立文楽劇場の入り口に集合しました。昼公演の演目は『新版歌祭文』と『関取千両幟』『釣女』で、2番目の『関取千両幟』が八代豊竹嶋大夫さんの引退披露公演となります。

3時過ぎに終演、嶋大夫さんのお弟子さん 豊竹呂勢大夫さんのガイドで楽屋の見学会を開催しました。

呂勢大夫さんは大阪市が創造的芸術活動に贈る「咲くやこの花賞」や「日本伝統文化振興財団賞」も受賞されている文楽若手のホープです。

その呂勢大夫さんに文楽について

て基礎的な質問を色々しました。

★豊竹嶋大夫さんのお弟子さんになられたのは？

今から15年前です。それまでは豊竹呂大夫の門下生でした。

★師匠の豊竹嶋大夫さんの魅力はどこにあるのですか？

ありきたりの人生の中に人間の「情」があります。「情」というのは人情だけではなく、風が吹いても風情です。そういうすべての「情」を実に上手に表現されます。素晴らしいの一語です。

★客席の隅々まで響く声の発声法はどうして練習されたのですか？

腹式呼吸法で常に発声の練習をしています。お尻に敷きものを置き、背筋をピンと伸ばして声を出します。

★文楽は大夫、三味線、人形遣いの三業で舞台は進行しますが、指揮者がいません。でも、リード役がないと困るのでは？

リード役は大夫が務めます。

★三味線には太棹、中棹、細棹とありますが、文楽はなぜ太棹をつかうのですか？

大夫は男性であり、声が低い

め、低音の太棹を使います。

★文楽には演出家がいませんか？

普段の稽古が、そのまま一種の演出を受ける場になっている感じで、師匠や三味線弾きが「登場人物の距離感がないから、言葉を使うときは距離感を出しなさい」とか「こういう気持ちで言いなさい」など稽古で直したり、注意して下さるのが、いわゆる演出でしょうね。

★橋下徹前大阪市長の文楽補助金削減の問題については？

4年前、橋下徹大阪市長が補助金の削減を言い出し、文楽の技芸員ら47人が市役所まで出向き、意見交換会をしました。これは大変シロクでした。私自身、文楽の事は知っていますが、市政の事、法律の事は全く知らないのと同様、



文楽劇場の喫茶室での豊竹呂勢大夫さん

橋下さんは、いろいろな知識は豊富でしょうが、文楽をご存知ない。技芸員は50歳台でやっと食べられるのが現実です。人間はすべての分野での知識を持つことは不可能です。私も同じ人間、ただただ芸を磨くだけで精一杯です。

★「初春文楽公演」演目について一言

豊竹嶋大夫の引退披露狂言「関取千両幟」では関取の妻の「おとわ」は自分を身売りしてまで夫を助けようとしています。これは今の我々の常識では理解できかねますが、江戸時代では異常ではなかったのです。でも時代は変わっても、人の「情」は今も昔も変わりません。

この「おとわ」の切ない「情」を嶋大夫師匠は実にうまく現されていて、現代の我々にも共感を呼びます。

最後の演目『釣女』は今の女性からならセクハラだと非難を受けるかもしれませんが。女を釣る…というわけですから。でも、それを能の形式で薄めています。

文楽は基本的には全部悲劇です。でも滑稽で笑いを誘う演目もあります。『釣女』は、数少ない滑稽ものです。